



Cisco Defense Orchestrator での IOS デバイスの管理

- [CDO による IOS デバイスの管理 \(i ページ\)](#)

CDO による IOS デバイスの管理

Cisco Defense Orchestrator (CDO) を使用すると、Cisco IOS デバイスを管理できます。これらのデバイスでサポートされている機能は次のとおりです。

- [デバイスとサービスのオンボーディング](#)。IOS デバイ스에保存されている、高レベルの権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを使用して、デバイスをオンボーディングできます。
- [デバイスの構成ファイルを表示する](#)。デバイス構成ファイルを表示できます。
- [Cisco IOS または SSH から CDO への変更の読み取り](#)。Cisco IOS デバイスからのコンフィギュレーションファイルの変更が確認されると、CDO のデータベースに保存されます。
- [デバイスのアウトオブバンド変更](#)。デバイスで [競合検出 (Conflict Detection)] を有効にすると、CDO は 10 分ごとにデバイスの設定の変更をチェックします。変更がある場合、デバイスのステータスは [競合検出 (Conflict Detected)] に変わり、[競合を解決](#)可能になります。
- [CDO コマンドラインインターフェイスの使用](#)。CDO のコマンドラインインターフェイスを介して、すべての IOS コマンドをデバイスに発行できます。
- 個々の CLI コマンドおよびコマンドのグループを、編集および再利用可能な「[マクロ](#)」に変換可能。CDO が提供するシステム定義マクロを使用して、頻繁に実行するタスク用に独自のマクロを作成できます。
- [SSH フィンガープリントの変更の検出と管理](#)。デバイスのログイン情報またはプロパティが変更され、それによって SSH フィンガープリントが変更された場合、CDO はその変更を検出し、新しいフィンガープリントを確認して許可する機会を提供します。

- [変更ログ](#)。変更ログには、IOS デバイスに発行するすべてのコマンドがキャプチャされます。